

自由民主党

東日本大震災復興加速化本部長

額賀 福志郎 様

要 望 書

平成30年7月2日

福島県南相馬市長 門馬 和夫

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から7年が経過した現在、本市は、市民が安全・安心に生き続けることのできる環境を取り戻すため、各種復興事業に全力で取り組んでいるところです。

しかし、近隣自治体から約3千人を超す避難者の受け入れが進む一方で、今なお約7千人の市民が市外での避難生活を余儀なくされております。

市内における避難指示解除後の区域については、5月末現在で約3千人（震災前居住人口約1万4千人）まで着実に住民の帰還が進みましたが、生活の再開、生業の再建、まちの再生など解決すべき諸課題がまだまだ山積しております。

本市の復興を加速化させるとともに、復興・創生期間後も切れ目なく継続的な支援が必要であることから、下記事項を確実に実現するよう要望します。

記

- 1 被災地の聞き取り調査を十分に踏まえ、平成33年度以降の復興施策推進に向けて、復興庁後継組織の在り方を早急に示すこと。また、被災市町村の現状に即した切れ目ない財政支援を行うこと。
- 2 地域振興、支援活動及び緊急時の避難路の確保のための「(仮称)小高スマートインターチェンジ」を南相馬市小高区に設置すること。
- 3 福島イノベーション・コースト構想の下、浜通り地域に企業誘致や新産業創出による産業集積を進め、復興の加速化を図るため、企業立地を促す「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」や企業の技術革新を促す「地域復興実用化開発等促進事業補助金」の期間を延長すること。

- 4 福島復興再生特別措置法に基づく福島復興再生基本方針に即して、内閣総理大臣の認定を受けた重点推進計画に基づき、常磐自動車道のインターチェンジから各拠点へのアクセス機能、及び各拠点間を結ぶアクセス道路網の強化を図るため、福島ロボットテストフィールドと南相馬インターチェンジを結ぶインターアクセス道路（都市計画道路下高平北長野線）早期整備のため十分な支援を講じること。

以上